

平成29年3月1日号 (No.173)

## 「 大事なものは注学年 」

伊丹市立総合教育センター

所長 後藤 猛虎

いよいよ年度末となりました。当センター事業に1月  
末現在、7,975人の研修参加がありました。センター事  
業にご支援ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

小学校では、発達段階に応じて低学年、中学年、高学  
年に分けることがよくあります。3つの学年には、それ  
ぞれに特徴があります。低学年は、まだ幼稚園の延長上  
にあります。グループで遊ぶこともできますが、自己中  
心的な行動が多く、他人の立場に立って考えることに弱  
さがあります。担任としては、かなり手がかかり、丁寧な対応と忍耐力が必要です。

中学年は、知識欲と行動欲が旺盛な時期です。何でも、さわってみたい、見てみたい、やってみみたい時期です。そして、友達とワイワイ、ガヤガヤと集団で遊ぶ時期で、仲間意識が出てきます。そのため、集団でいたずらをしたり、意地悪をしたりもします。担任としては、知識欲があるので、興味や関心を広げるような手立てをする必要があります。また、集団意識が高まるので、集団づくりを工夫するとともに、集団行動に十分目配りする必要があります。高学年は、思春期への移行時期です。自我意識が発達し、精神的に自立していきます。大人をよく見ていて、批判的な言動をします。時にはやり込められることもあります。いじめは陰湿化し、教師に気づかないように目の届かないところで行われるようになります。担任は、少し生意気で背伸びをする子どもたちの自我を受け入れ、子どもの自主性を引き出した学級経営が必要です。また、いじめが発覚しても、理屈を言って認めようとしないところがあります。事実を付き合わせて、じっくりと話をしなければなりません。

さて、大阪成蹊大学の園田 雅春教授は、『ややもすれば、中学年は「担任としてもちやすい学年」と思われがちだが、これは大きな間違い。実は、中学年の担任というのは、小学校で非常に重要な任務をもっています。最も注意を注ぐべき「注学年」と思っています』と言っています。園田教授の言う重要な任務とは何でしょうか。重要な任務の一つは、9歳の壁の克服だと思えます。学習には抽象的な思考力が必要です。学力に差が出るのはこの頃です。担任には、丁寧なわかる授業の工夫が求められるのです。二つ目は、仲間との関係づくりです。ギャング・エイジの時代です。仲間と悪いことも良いこともしますし、仲間同士でけんかもします。集団をとおして、物事への対応の仕方や態度を身につけさせなければなりません。担任には、仲間の良さを実感できる学びを教育活動に仕組み、つらい時、失敗した時にフォローしてくれる仲間づくり、集団で活動することの楽しさを味わわせてくれるクラスづくりをする必要があるのです。支持的風土のあるクラスか、そうでないかは、高学年での子どもたちの関係に大きな影響を与えます。中学年で十分に仲間づくりができていないと高学年での学級の荒れや不登校につながっていきます。そして、それは中学校へと影響するのです。今どき「中学年はもちやすい学年」という伝統的な考え方はもはや通じないのかもしれない。



# 不登校の未然防止と初期対応

～学校として、担任として  
取り組むべきこと～

全国的に増加傾向にある不登校について、未然防止と初期対応のためにはどのような取り組みが必要なのかをまとめました。また、クラス担任の先生方へ向けて、子どもたちの様子を把握するためのチェックシートも紹介しています。ご活用ください。

## 不登校とは・・・

何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しないあるいはしたくともできない状況にある者（ただし、「病気」や「経済的理由」による者を除く）

### 【不登校の具体例】

- ・友人関係や教職員との関係に課題を抱えているため登校しない（できない）。
- ・遊ぶためや非行グループに入っていることなどのため登校しない。
- ・無気力で何となく登校しない。迎えに行ったり強く催促したりすると登校するが長続きしない。
- ・登校の意志はあるが身体の不調を訴え登校できない。漠然とした不安を訴え登校しないなど不安を理由に登校しない（できない）。等

文部科学省HP  
児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査-用語の解説 より

不登校の要因は様々で、複合的に関係しています。その中から、不登校の未然防止と初期対応について、学校として取り組む内容、意識しておくべき内容をピックアップしてお伝えします。

## 未然防止

～児童生徒にとって魅力ある学校づくり～

＜児童生徒にとって「魅力ある学校」とするため、  
【居場所】【絆】【わかる授業】の3つを意識する＞

【居場所】づくりとは…学級や学校をどの児童生徒にとっても落ち着ける場所にしてい

- ・児童生徒のよいところを見つけ、認めることをこころがける
- ・児童生徒が安心・安全に学校生活を送れるような学級環境づくりを行う

【絆】づくりとは…日々の授業や行事等において、全ての児童生徒が活躍し、互いが認めあえる場面を実現すること

- ・「授業」「行事」「学級活動」等、学校の全ての時間において、友だちと話し合ったり、遊んだり、学び合ったりする時間を意図的に作り出し、関係性を構築する場と機会の設定をする

【わかる授業】づくりとは…どの児童生徒にとっても、教師の発問や指示、授業構成の工夫によって、学んでいることがわかる授業を行うこと

- ・興味を引き出し、児童生徒が意欲を持つような工夫を行う
- ・発問や指示においては、「短く」、「適切な音量・速さ」を意識する
- ・様々な特性を持った児童生徒がいることを踏まえ、視覚的、聴覚的にわかりやすい工夫をする

## 初期対応

～早期発見・早期対応～

### 【早期発見に向けて】

- ・事前に遅刻・早退・欠席等の回数や理由について把握する
- ・気になる児童生徒は、日常的な声掛けや提出物のチェックを通して、様子の変化を見逃さないようにする
- ・Q-U等を用いて子どもの状態をチェックする

### 【早期対応について】

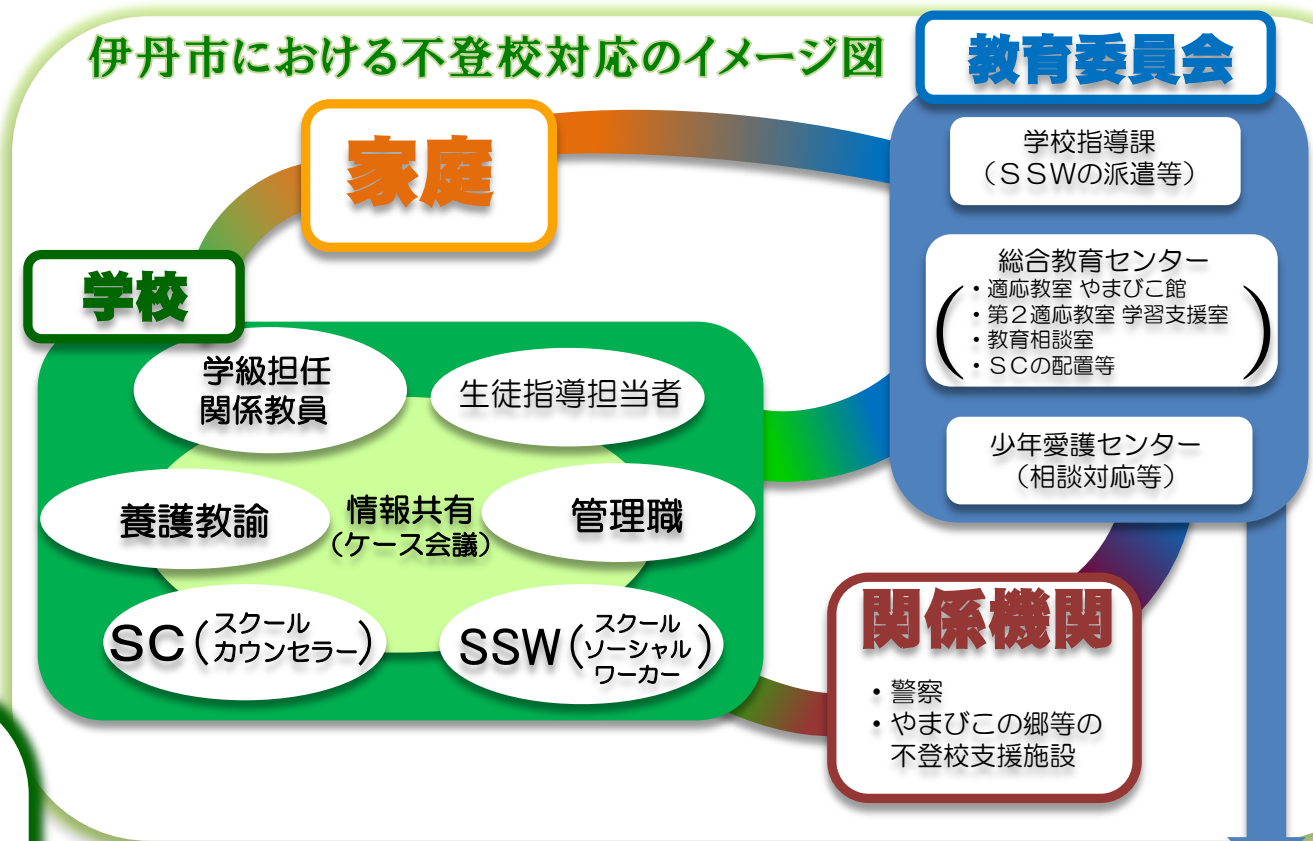
- ・学級担任や関係教員、生徒指導担当者、管理職、養護教諭、SC、SSWと連携し、不登校の原因を的確に把握するとともに、復帰への手立てを考える
- ・児童生徒に合わせた登校刺激を行い、学校に対する興味関心を高めたり、学校に来ることの楽しさを感じさせる
- ・気になる児童生徒の家庭へ定期的に家庭訪問を実施し、生活改善の啓発や児童生徒理解に努める

## 家庭訪問のポイント

- 1 事前連絡を入れてから訪問する（約束の時間は必ず守る）
- 2 本人の家庭での様子、変化を正確に把握する
- 3 先生は理解者であり、味方であるということを伝え、安心感を与える
- 4 説得や強迫は避け、本人のペースに合わせる
- 5 本人の主張に耳を傾け、気持ちをわかろうとする
- 6 本人の得意なことにつきあい、子どもと仲良くなることを大切に
- 7 保護者との関係を大切に
- ・保護者の気持ちを受容・共感し、学校が精一杯支援することを伝える
- ・原因追及の話はしない
- ・家庭環境による影響が強いと感じても、指摘しない
- ・配布物は必ず渡す
- ・関係機関の紹介は、学校に見捨てられたような気持ちにならないよう配慮する

「兵庫県立但馬やまびこの郷 学校復帰支援ガイドライン」より一部抜粋

## 伊丹市における不登校対応のイメージ図



## 児童生徒の様子の変化を捉える チェックシート

気になる児童生徒がいたら、以下の項目をチェックしてみましょう。当てはまるものがあれば、話を聞いたり、注意深く様子を見たりして、的確な状態把握に努めましょう。

- 遅刻、早退が多い
- 理由があいまいな欠席がある
- 体調不良を訴えることが多い
- 一人でいることが多い
- 表情が暗い
- 疲労感、無気力感が感じられる
- 小さな失敗を必要以上に気にする
- 学校や教師の批判が増えている

「兵庫県立但馬やまびこの郷 学校復帰支援ガイドライン」より一部抜粋

## 伊丹市教育委員会の取組

伊丹市教育委員会では、不登校に関して以下のような取組を行っています。

- ・SC (スクール・カウンセラー) の配置  
…児童生徒の心の悩みの深刻化やいじめ・不登校等の問題行動に関して、児童生徒へのカウンセリング、教員・保護者へ助言等を行う
- ・SSW (スクール・ソーシャル・ワーカー) の派遣  
…子どもの家庭環境による問題に対処するため、児童相談所と連携したり、教員を支援したりする
- ・適応教室 (やまびこ館・学習支援室)  
…心理的または情緒的理由で長期欠席している児童生徒に対して、小集団による体験学習や学力保障を行い、学校への復帰を支援する施設
- ・メンタルフレンドの派遣  
…ひきこもり傾向の児童生徒に対して、心理学を専攻する大学生や大学院生等 (メンタルフレンド) を家庭に派遣し、学校復帰への支援をする

これからも上記取組の継続と、学校との綿密な連携を行い、不登校の未然防止や、不登校児童生徒が学校へ復帰できるよう、取り組んでいきます。



# 総合教育センター事業報告

今年度、総合教育センターでは市内教育の「シンクタンク」として様々な取組を行いました。来年度も自身の資質の向上に向け、ぜひご活用ください。

(それぞれの事業の数字は平成29年1月末現在のものです)

## 研修

7,975人研修参加

### 「こんなことをしています」

今年度総合教育センターでは、児童生徒の「学力および学習意欲の向上」、教員の「指導力向上」等のため、「授業力向上講座」「トップリーダー研修」「ミドルリーダー養成研修」「キャリア教育研修」「道徳教育実践講座」を充実させました。

### 「来年度に向けて」

道徳教育やキャリア教育、次期学習指導要領に関する事等、国の動向を踏まえた研修をグループ討議やワーク等の参加型により実施し、教員の指導力向上を支援していきます。積極的にご参加ください。

## 授業力向上(カリキュラム)支援センター

自主研修1,968人

### 「こんなことをしています」

- ・2名のコンサルタントが相談等に対応し、教員のサポートをしています。
- ・夜間に、「カリセンミニ講座」「臨時講師等対象セミナー」「トワイライト研修」を実施しています。
- ・教育図書・雑誌・DVD等を貸し出しています。

### 「来年度に向けて」

コンサルタントによるきめ細やかなサポートと充実した講座の実施。豊富なコンテンツも用意しています。是非、カリセンをご活用いただき、さらなるスキルアップにつなげてください。

## 教育相談

相談件数1,845件

### 「こんなことをしています」

- ・幼児児童生徒の心身の健全な育成を支援するために、保護者の申し込みによる「こころの相談」「特別支援教育相談」「ことばの支援教室」を行っています。
- ・学校園からの依頼で「医療相談」「医療発達相談」「特別支援教育巡回相談」を実施しています。
- ・学校園との情報交換や教職員自身のメンタルヘルスに関する相談を実施しています。

### 「来年度に向けて」

学校園と連携しながら様々な問題の解決を図っていきます。ぜひ有効にご活用ください。

## 不登校児童生徒の学校復帰支援

適応教室32人在籍

### 「こんなことをしています」

- ・適応教室「やまびこ館」では、集団生活への適応を、第2適応教室「学習支援室」で学力と学習意欲の向上を目指し運営しています。
- ・メンタルフレンドによる家庭訪問を実施し、児童生徒の自主性や社会性を育て、学校復帰を目指します。
- ・「不登校を考える親のつどい」を年2回開催しています。

### 「来年度に向けて」

学校との連携の下、不登校児童生徒の学校復帰に向けて取り組んでいきます。

## 教育の情報化

ICT活用授業時間数 1クラスあたり1か月の平均18時間

### 「こんなことをしています」

- ・情報教育研修会や、学校園別コンピュータ研修会、情報モラル・情報セキュリティ研修(eラーニング)を実施しています。
- ・当センターHP「家庭学習のへや」において、「みんなの学習クラブタブレット版」を運用し、小学校(国・算・社・理)と中学校(国・社・数・理・英)用プリントを配信しています。
- ・学校園版情報セキュリティポリシーに基づき、資産管理システム等を運用し、ICT機器のセキュリティ対策を行っています。



情報教育研修会

### 「来年度に向けて」

「教科指導におけるICT活用」をさらに推進するため、ICTの整備とICT活用に関する研修の充実を図ります。また、研修を通して、情報セキュリティの重要性を先生方へお伝えしていきます。